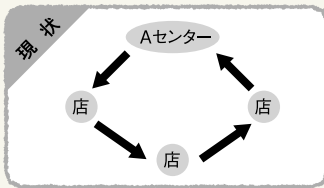


CO2削減に向けた取り組み



輸送経路の短縮

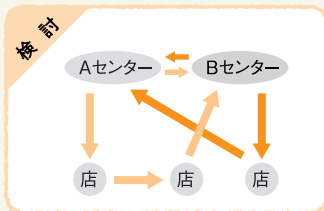
日本では、2030年には温室効果ガス排出量を2013年比で46%削減、2050年に完全なカーボンニュートラルを実現することを目標に定めています。尚、運輸に係わる数値目標としての2030年の目標として、2013年度比で35%削減が掲げられています。フレスタの2022年度の実績では、2013年度比▲13.1%を実現しておりますが、まだまだ目標数値には達していない状況です。残る22%のCO2削減の実現に向け、フレスタ内だけの物流取組みから、他社物流とのマッチング（共同配送）実施による、トータル輸送距離の短縮を図り、さらなるCO2削減に向け舵を切ってまいります。



各々が配送

現状一例) 生鮮便で冷凍原料を冷蔵車で納品

/日	生鮮便	日配便	小計
走行距離	11,284km	6,418km	17,702km
CO2排出量	1,580kg	899kg	2,478kg
平均積載率	44%	74%	59%



共同で配送

マッチング一例) 日配便で冷凍原料を専用マテハンで納品

/日	生鮮便	日配便	小計
走行距離	8,443km	8,729km	17,172km
CO2排出量	1,182kg	1,222kg	2,404kg
平均積載率	70%	70%	70%

CO2排出量
3.0%削減!

モーダルシフトの推進

フレスタは2017年度より、環境負荷を低減するためにモーダルシフト（輸送経手段の転換）に取り組んでいます。また、「ラルズ・シジージャパン・フレスタ・原信 モーダルシフト推進協議会」にも参加し農産物などの輸送について、トラックから鉄道へ転換する輸送計画と実績について協議しています。今後も輸送品目の拡大と啓蒙活動を行い、さらなる活性化と計画達成に向けて活動してまいります。



目的

- 1). 高騰を続ける輸送コスト削減と二酸化炭素排出量削減の両立
- 2). 青果物を中心とした品目ごとの計画、実績検証、適正輸送方法の共有、蓄積模展開
- 3). 縮小を続ける生産者規模に対し小売り流通が輸送手段を産地と共に決定する調達物流、流通経路の簡素化、見える化、品質の向上

推進協議会合計実績

(JR5=トンコンテナ換算)

2021年度 1,208.5台 (前年比108%)
CO2削減量 323.2トン※トラック⇒JR削減率 約60.4%

輸送品目 フレスタ輸送実績 49 台

※中国シジージャーマインド広島含む品目

- 1) みかん、パイナップル
- 2) ごぼう、かぼちゃ、たまねぎ
- 3) 野菜水煮
- 4) 北海道野菜 夏場の冷蔵コンテナによる鮮度保持と二酸化炭素削減